

未完成文集

主幹教諭 中村昌子

運動会が終わり、秋らしさが日一日と深まりつつあります。運動会にはたくさんの保護者の皆様、ご家族の皆様においでいただきありがとうございました。大きな声援が何よりも子どもたちの力になったことと思います。

さて、季節はきくまつりに向かって動き始めています。今年は創立80周年、80周年の本番がすぐそこまできています。そこで、学校の歴史がわかるものはないかといろいろとさがしておりましたところ、こんな名前の文集を見つけました。「未完成文集」この文集は昔のものではありません。第六回の卒業生の皆様が、昔をなつかしんで、当時の思い出を書き綴ったものです。なかなか全員の方の投稿がそろわないので「未完成文集」という名前にしたそうです。この六回生のみなさんは、創立以来、はじめて1年生から6年生までの6年間をこの附属大泉小学校で過ごした方たちです。そして、この6年間（昭和14年～20年）は日本が不幸な戦争へとまっしぐらに突き進み、その戦争下で、附属小学校の生活をおくらざるをえない日々だったのです。3月7日に卒業のために疎開先から帰ってきた3日後、東京大空襲に襲われ、本当に恐ろしい体験をしたそうです。楽しさと喜びに満ちあふれた今の子どもたちには想像がつかないような、つらく悲しい出来事も沢山ある中で、本校の今につながる様々な活動の原点を築いてきたことがこの文集をよむとひしひしと伝わってきます。

昭和18年の11月の記録にこんなことが残されています。（まだきくまつりも始まっていない頃です）

- **どんぐりひろい** …毎年11月いっぱい、全校の行事でどんぐりをいっぱいひろい、アルコール、タンニン、家畜の飼料原料にしました。昭和18年の目標は、1、2年生が一人5kg、3、4年生が10kg、5、6年生が15kg、全校で7800kg 拾いました。これを売った収入で「弾丸切手」を買いました。
- **イナゴ取り**…イナゴを田んぼなどで捕って、茹でて干して集めました。昭和18年10月全校児童でイナゴ捕り。目標は1、2年一人100匹、3、4年200匹、5、6年300匹。1日で取り切れない子は後日自分で捕ります。全校で102400匹とれました。捕れたイナゴは一部給食に出ましたが、食べなかった子がほとんどでした。その他のイナゴは家畜飼料として売り、その収入で「弾丸切手」を買いました。

この「弾丸切手」とは「戦時郵便貯金切手」というものです。郵便にはる切手ではなく、国にお金を預ける定額貯金です。1枚2円、抽選で1等1000円当選する事もあったそうです。戦争をするための費用になるので、当時は「弾丸切手」を買うことは、戦争

に必要なお金として役立てるという考え方でした。

他にも、麦や野菜を育てたり、ヤギ、ウサギ、ニワトリ、アヒルなどを飼ったり、枯れ葉を集めて堆肥作りをしたりしていました。戦時下の中で、半分は生きていくためのすべだったのでしょう。しかし附属大泉小学校は「生活の中に学習がある」「行学一体」の教育、いわゆる「生産性増強の教育」が開校以来の基本理念だったのです。農村の仕事のように惜しみなく世話をして実りを求め、その実りを自分たちの生活に使う、この長い一つのインターバルの生活を教育のモデルとして貫いてきたのです。ですから、ドングリ拾いもイナゴ捕りも、なんと馬糞運びまで当時の子どもたちは誰もいやがらずに懸命に取り組んだそうです。80周年を迎える菊の子たちに、「未完成文集」で伝えていただいた伝統を、しっかりと受け継いでいってほしいと願うばかりです。